

全国文学館協議会共同展示

文学と天災地変

2013年春、全国37文学館で同時開催

主催
全国文学館協議会

まもなく東日本大震災から満二年を迎えようとしています。いまだ故郷に戻れない方々も多く、放射能汚染問題も処理も解決されていません。メルトダウンした福島原発の現状さえ明らかになっていませんし、廃炉にするのにどれほどの年月を必要とするか、その見通しも立っていないばかりか、被災地の復旧、復興の目処も立っていないといっても言い過ぎではないでしょう。

この同じ企画による共同展は全国文学館協議会として最初の試みですが、この企画展に展示される多くの作品によって、私たちは東日本大地震の被災者の方々に対する私たちの心情をお伝えし、さらに、私たちの文明を考える機会とし、未来を創造する契機とすることを願っているのです。

私たち、全国文学館協議会は、この共同展示により、文学が天災地変をどう表現してきたか、をご覧いただき、被災者の方々に思いを寄せ、私たちの生活をふりかえることを期待してやみません。

全国文学館協議会 会長 中村稔（本展趣意文より抜粋）

本展は、全国文学館協議会加盟館のうち37館が参加し、「文学と天災地変」という共通テーマの元に各館が同時発生的に展示を開催する企画です。

各館の展示概要およびスケジュールは裏面の一覧をご覧ください。